



TITLE:

花山だより

AUTHOR(S):

CITATION:

花山だより. 天界 1936, 17(188): 79-79

ISSUE DATE:

1936-11-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167370>

RIGHT:

花 山 だ よ り

◆10月 4日 神戸の岡林氏射手座に新星発見。續けざまの快報に益々緊張す。

◆10月 6日 は本年度第5回の談話會で、小山氏はわざわざ倉敷から來られて日食の光度觀測に就いて發表され、柴田氏は日食乾板整理の第2報を、山本教授はニュージーラン學界に於ける星の色の觀測に就て話され、折よく歸京された本田實氏は臺灣で試みた黃道光觀測の模様を語られ中々の盛況であつた。詳細は別紙に記載される事であらう。

◆10月 9日 久しく待望されたトムキンスの60糎反射鏡が到着する。稻葉さんは運轉時計、微動裝置等に就て心配され、早速荷造りを解き、翌10日は臺長以下總動員で一先づ本館廊下に据付けを終る。

◆10月16日 山本教授、稻葉、柴田の兩氏は岡山の學術大會に出席のため出發。倉敷の小山氏を加へて、今度の日食觀測の結果の一部と、花山で行はれた經度協同觀測の結果を發表された。

◆10月20日 より山本教授、高城、公文の兩氏は大津の藤井天文臺に出かけて經緯度觀測を開始。22日夜で觀測を終つた。

◆10月21日 鶯座に第2新星発見!! の電報が入る。早速、小山氏は眼視觀測。柴田氏は寫眞にスペクトルに一夜を忙殺された。

◆木邊氏はトムキンスの鏡面テストを行つたが結果は中々良好らしい。

◆10月24日 京星會主催で二條公園に星を見せるの會が催され、會員夫々の反射鏡を持寄り熱心に一般市民に説明等頗る活氣を呈してゐた。花山よりは高城、公文氏が應援に出かけ、山本博士も一寸と顔を見せて、全く打解けた天體觀望會であつた。

◆11月 3日 松岡滿鐵總裁以下8名の人々が來臺、大學では松山理學部長、山本教授、竹田助教授以下臺員總出で接待に當つた。猿丸氏の32貫の巨體には一寸度膽を抜かれた形で、初めは誰しも用心棒と思つてゐたらしい。山本臺長の説明に總裁獨特の語氣で「成程天文學は厄介な道楽だなあ」には一同一寸顔負けの態。

◆近頃特に見學者が増えたが見學願は本部庶務課を通ずる様御願ひする。

(11月10日、月斗生)